

現代ガラス アメリカ、ヨーロッパ、日本の潮流

Glass Art: Contemporary Currents in America, Europe and Japan

ガラス芸術は、国際化のいちじるしい現代においてどのような展開をみせてきたのでしょうか。作家たちの交流や、技術や地域文化に関する情報共有は国境を越えて活発化してきました。それと同時に、地域や国で異なる伝統、教育、技術開発などを背景にした、創作の独自の展開が見られます。

アメリカでは、H.K. リトルトン(1922～)が、専門の職人と工場とで行われていたガラス制作は個人のスタジオでも可能であるということ、実験的なワークショップによって広く知らしめました。ヨーロッパに目を転じると、ガラスによって伝統に縛られない自由で大胆な造形を高いレベルで実現し

たチェコのS. リベンスキー(1921～2002)らが大学等の専門教育の現場で活躍し、東欧を中心に多くの作家に影響を与えています。また戦後の日本では、ガラス作家として個人での作品制作が盛んになり、なかでも藤田喬平(1921～2004)は伝統的な美意識を感じさせる「飾管(かざりばこ)」シリーズで国際的に高い評価を得ました。

本展では、こうしたアメリカ、ヨーロッパ、日本それぞれにおいて創作を牽引してきた作家たちを中心に、地域的な独自性に焦点を当てます。当館のガラス・コレクションを通し、豊かな創造の世界をお楽しみください。

No. 作家名	作品名	制作年	材質：技法
1 ウルズラ・フート	素描一日より	1985	ガラス：被せガラス、ステイニング、エングレーヴィング、着色、鉛砕
2 イヴァン・マレシュ	卵	1997	クリスタルガラス：キャスト、部分的にカット
3 ハーヴィー K. リトルトン	向かい合う放物線の形	1981	ガラス：被せガラス、カット
4 ジニー・ラフナー	統一された球技場理論	1988	ガラス：ランプワーク、サンドブラスト、着色、ドローイング
5 ジョーイ・カークパトリック フローラ C. メイス	フルーツの静物	1994	ガラス：宙吹き、ガラス粉溶着による着色
6 ケケ・クリプス	ミラ	1994	ガラス、木、絹、ビーズ、金箔
7 パウラ・バートロン	白の水槽	1996	ガラス：サンドキャスト、切断、荒摺り、フュージング
8 ロバート・パルスキー	生は暑い夏の日のように 彼のもとを過ぎ去った	1987	ガラス：キャスト、接着、着色、サンドブラスト
9 ジェイ・マスラー	街景	1982	ガラス：カット、サンドブラスト、着色
10 リチャード・マイトナー	ジャック	1997～2000	ガラス：ホウケイ酸ガラス、宙吹き、エナメル焼付、金箔、一部色水を満たす
11 ミーケ・フロート	バック・トゥ・ザ・ドローイングボードⅠ	1982	ガラス：被せガラス、銀箔溶着、箔に素描
12 ミーケ・フロート	バック・トゥ・ザ・ドローイングボードⅡ	1982	ガラス：被せガラス、銀箔溶着、箔に素描
13 ミーケ・フロート	バック・トゥ・ザ・ドローイングボードⅢ	1982	ガラス：被せガラス、銀箔溶着、箔に素描
14 エルヴィン・アイシュ	インター=ネット	1997	ガラス：型吹き、エナメル焼付、エングレーヴィング
15 ベルナルド・ドゥジョング	白の上昇	1997	ガラス：光学ガラス、フュージング、失透、のみによる研削、研磨
16 スタニスラフ・リベンスキー ヤロスラヴァ・プリフトヴァ	頭 89	1989	ガラス：キャスト
17 ヴァーツラフ・ツイグレル	陽の気	1988	ガラス：真空蒸着、研磨、カット、金属
18 ヴァーツラフ・ツイグレル	陰の気	1988	ガラス：真空蒸着、研磨、カット、金属
19 オルドルジヒ・プリーヴァ	プリズム	1989	光学ガラス：カット
20 オルドルジヒ・プリーヴァ	立方体	1989	光学ガラス：カット

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法
21	藤田 喬平	飾宮・海の彩	1980(昭和55)	ガラス：色ガラス粒と金属箔による装飾、型吹き
22	岩田 久利	花器・雲	1988(昭和63)	ガラス：宙吹き
23	米原 眞司	静かな赤	2001(平成13)	ガラス：被せガラス、宙吹き、ピックアップ、サンドブラスト、エッチング
24	塩谷 直美	海を渡る夢	2002(平成14)	ガラス：キャスト、サンドブラスト、研磨
25	伊藤 孚	円筒	2002(平成14)	板ガラス、鉄板：サンドブラスト
26	三宅 道子	心は君が影となりにき	2002(平成14)	ガラス、テラゾ(人造大理石)、鉄